

「社会健康医学」基本計画策定委員会（第4回）について

1 前回の議論

＜ゲノムコホート研究＞

- ゲノム情報及び医療データを分析し、県民の健康寿命の延伸に役立てるための研究

（主な意見）

- ・ 研究の規模は、調査結果に統計的な意味を持たせるには、通常では1万人以上を登録する必要がある。静岡で行う場合は、1万人から10万人くらいである。
- ・ 調査結果が出るのは20年後であり、それに基づいて疾病予防などの施策に反映させることになる。まさに将来を見据えた研究である。ただし、調査の途中でも、役立つ調査結果は県民に還元することができる研究とする。

＜拠点となる仕組み＞

- 既存の大学を活用して取り組む（寄附講座や委託研究）
- 既存の研究施設を活用して取り組む
- 社会健康医学に特化した研究所を新設して取り組む
- 社会健康医学に特化した大学院大学を新設して取り組む

（主な意見）

- ・ 研究の推進に当たっては、既存の大学や研究施設を活用して、できることから取り組むラインと、新たな仕組みを作って、長期的に人材育成をしながら取り組む2つのラインがある。県は、これを組み合わせるべきである。
- ・ 健康寿命延伸のための成果は、早期に県民へ還元する必要があるため、まずは、早期に取り組むことができる研究を行い、将来を見据えた研究をできる体制を整え、最終的に研究機関や大学院大学を目指すという、時系列で発展させていくことが望ましい。
- ・ 寄附講座や委託研究を行う場合、県が目指す将来的な方向性に合致したものとすべきである。

＜社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の骨子（案）＞

（主な意見）

- ・ 骨子については、事務局案で特段問題ない。

<まとめ>

- ・大学院大学には、学位や国家資格の取得というモチベーションがある。有能で意欲ある医療専門職が静岡県に根付くためには、モチベーションが必要であり、大学院大学のメリットは大きいので、その方向に持っていくべきである。
- ・常に進化している医療を健康寿命延伸に還元するためには、人材育成が最も有効であり、常に研究する、学べる拠点が必要であり、大学院大学を目指すべきである。
- ・長期的かつ継続的に研究を行い、人材育成もするとなると大学院大学が最もふさわしいが、文部科学省の認可など時間を要するため、まずはリサーチサポートセンター等を活用して研究を進めるとともに、医師や研究者を招へいして研究体制をつくり、大学院大学へ発展させていくことが望ましい。

2 第4回の検討項目

(1) 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）の素案について

- ・ 社会健康医学研究推進基本計画（仮称）素案について、議論する。